

令和 8 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 1 月 30 日

江別市立江別太小学校

1 本年度の重点目標

自他を大切にし、ともに高めあう子どもの育成

- 【教育目標】 A すじ道をたてて 考える 子ども  
 B やさしくて 思いやりのある 子ども  
 C 健康で 明るい 子ども  
 D ねばり強く やりぬく 子ども

今年度より、先人が願いを込めてつくった教育目標に立ち返り、重点目標を意識しつつも、教育目標にある「育む子ども像（ＡＢＣＤ）」について、それぞれ 2 項目の具体像を示し、それが実現されているかどうかについて学校評価を実施することとした。

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	B (2) 多様を受け入れ、相手の立場を広く考えることができる。	A	児童・保護者・教職員ともに肯定的な回答が多数である。人権教育などを充実させていく。	A (A9)	A (A9)
	C (2) 保護者や地域の方への感謝の気持ちを表現している。	B	児童は 60%が「できている」と実感しているが、保護者・教職員は 20%以下にとどまる。大人と子供の感謝の気持ちの表し方についての理解を共通認識していく必要がある。	B (A4) (B5)	A (A6) (B3)
教育課程・学習指導	A (1) 学習の基礎・基本を身につけており、学んだことを生かしている。	B	「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合が三者ともに 50%程度を占める。特に児童は肯定的回答が 80%近くであるが、教師は 40%が「どちらかと言えば当てはまらない」と回答しており、児童とのギャップが大きい。「学びを生かしている」姿に価値づけをして授業を進める必要がある。	B (A3) (B6)	A (A7) (B2)
生徒指導	A (2) 正しい言葉遣いで自己表現することができる。 (いじめ対応含む)	B	「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合が三者ともに 50%程度を占める。児童の 40%は「当てはまる」と回答。一方で、特に	B (A3) (B6)	A (A7) (B2)

			教師は55%が「どちらかと言えば当てはまらない」と回答しており、児童とのギャップが大きい。伝え方が間違っていて日常的な指導事案が発生していることがそのように感じさせている。ソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れて、良好な人間関係づくりを学ばせる必要がある。		
D(1) 学習や生活の計画を立ててやりぬくことができる。	B	教師の50%、保護者の30%が「どちらかと言えば当てはまらない」と回答。一方で児童は肯定的な回答80%を占める。行事、委員会活動などを通して、計画を立てること、進捗に応じて、目標を実現するための計画練り直すことなどを体験させ、「やりぬく」という行動を共通理解していく必要がある。	B (A3) (B5) (C1)	A (A6) (B3)	
D(2) 学習を振り返り、自分の成長を実感することができている。	A	三者ともに肯定的回答が高い。児童のメタ認知能力を育むために、リフレクションを重視した授業に取り組んでいることから、その成果を三者ともに実感していると考えられる。	A (A9)	A (A8) (B1)	
B(1) 美しいことや正しいこと、善いことに感動し合うことができる。 (いじめ対応含む)	A	三者ともに肯定的回答が高い。今年度は、ふれあい(縦割り)班による集会活動、合唱活動を多く取り入れたため、児童にとっても実感として残っていると考えられる。また、教職員は、そういった活動のあとの児童の振り返りによって実感を得ていると考えられる。	A (A8) (B1)	A (A9)	
C(1) 明るくあたたかい声であいさつができる。 (いじめ対応含む)	B	児童・保護者は肯定的な回答が高い。一方で教師の40%弱は「どちらかと言えば当てはまらない」と回答。教師から促してあいさつすることが多いと感じている。また保護者の中には、地域の方へのあ	B (A4) (B5)	A (A6) (B3) (C1)	

			いさつが少ないのでは、という記述があり、あいさつを地域に広げる取組をしていく必要がある。		
小 中 一 貫 教 育	①小中一貫教育の拡充を図るため、ブロック協議における成果や課題を重視し、日々の授業に反映させる。	B	今年度は豊幌小の授業を参観した。また、江陽中からは、進路状況が説明され、学力が入試に直結していることを小学校教員は実感した。これらを生かし、さらに授業改善に取り組んでいく。	B (A4) (B5)	A (A6) (B3)
	②義務教育9年間を見通した家庭での学習の取組を通して、宿題から自学の姿勢を育むなど、家庭での学習習慣の定着を図る。	B	重要なのは、学習への主体性を育むことである。一人一人が「できた」を実感できるように、小さな目標設定をするなど工夫をしていく。	B (A3) (B6)	A (A6) (B3)
<p><b>【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】</b></p> <p>○今回の子どもの実感、大人の実感調査は素晴らしい。</p> <p>○指導している先生方は、どうしても高い目標を目指すので評価が低くなることはよく理解できます。ご苦労様です。様々な家庭（子ども・保護者）がある中で皆さんで同じ方向同じ目標を目指している先生方には感謝の言葉しかありません。子どもたちを育てる協力は地域として全力で行います。大人たちも仲良く楽しく子育てをやっていきたいですね。</p> <p>○庭で草取りをしている時、下校時の2～3年生くらいの女の子が「こんにちはは何しているの」と声をかけてくれた。しばらく（3分くらい）話をし、「がんばってね」と言いながら帰宅した。顔見知りではない子なので、ほっこりとした気持ちで見送った。</p> <p>○教育目標は子どもたちにも大切意識して育ってほしいです。</p> <p>○他学年との交流はとても良いと思う。下校後の遊びの時にも交流しています。</p> <p>○改善の方策は見やすく分かりやすいので、とてもよかったです。</p> <p>●子どもたちの公共心の向上（公園等のゴミ処理等みんなで使う公園）を心がけて欲しい。</p> <p>●子ども・保護者・教師のギャップについては、子どもの立場に立って見て欲しい。</p> <p>●あいさつは出来る子と出来ない子の差が激しいような気がしています（地域）</p> <p>●児童・保護者・教師、それぞれのギャップが少なくなれば良い方向へと改善されるのではないでしょうか。</p> <p>●登下校の安全について見直したいです。</p> <p>●あいさつについては防犯意識から知らない人とは話さないと言っているのが難しいと思う。</p>					

【評点】 A：よい      B：おおむねよい      C：ややよくない      D：よくない